



「CLOUD」- 21. 福田繁雄

相生森林美術館所蔵品による

木彫造形と中国木版画の世界展

1996年 5月1日(水)～6月2日(日)

開館/AM9:00～PM5:00(入館はPM4:30まで) ※休館日:月曜日 但し、その日が祝日の場合は翌日

入場料/大人300円(240円)・高校・大学生150円(120円)・小・中学生80円(60円)

※()内は団体20名以上料金 常設展料金含む

主催/町立塩江美術館 後援/四国新聞社・西日本放送・NHK 高松放送局

町立塩江美術館

〒761-16 香川県香川郡塩江町大字安原上字星越602番地
TEL0878(93)1800(FAX共通)

相生森林美術館所蔵品による

木彫造形と中国木版画の世界展 5月1日(水)～6月2日(日)



「彫像」田口政典



「彫像」田口政典

徳島県南東の山間部に位置している相生町に県内唯一の町立である、相生森林美術館があります。地元が木材の産地であることに目立、木の素材を豊富に使った建築をしています。美術館では、このようなことから収蔵作品についても木彫・木版画といった木の素材にこだわった数々の作品があり、木彫界の一つの拠点となる美術館になっています。

本展では、美術館のこうした所蔵作品の中から木彫7点、木版画25点をご紹介します。

主なものとしては、アカデミックな回来の写実彫刻に満足せず、戦後いち早く前衛彫刻を発表し、そのバイオニアとして高く評価されている建築家、建築家材などを採った木組みのスタイルを基本とし、木の素材を巧みに生かしたシンプルな作品を制作している最上壽之。詩情にあふれ、生命感のある作風で、神話や仏教から題材を取ったものを多く残している田口政典。木の美しさを生かした抽象彫刻を制作している池田喜一。労働者の生活テーマとした作品を制作してきている里藤江。木の曲に立ち、きいてください木の心を、そして自分の想いをと語りかける新韻。石のようなボリュームと迫力には欠けてはいないけれど、木の持つ柔らかいムードとデリケートな感覚に心ひかれ、脚をもたず、権威に屈びず自己の道をひたすら歩いた植木茂といった7人の作家の木彫作品。

また、独特の豊富多様な自然景観、様々な少数民族の風俗及び生活習慣を基本素材として表現し、中国国内外の美術展において数多くの賞を獲得して、中国版画界では、最高水準のレベルに達していると言われている中国雲南省の作家たちの制作した版画25点の作品を展覧いたします。この機会に是非ご覧ください。



「彫像」待松平



「彫像」竜馬南風 一 地蔵 仁王野



「彫像」龍馬 南風

次回展覧会

第2回 ほたるの里 しおのえフォトコンテスト作品展
6月4日(火)～6月23日(日) 休館日/月曜日

本展では、塩江町の風景・風俗及びほたるに関する写真作品を公開し、その中から優秀な作品を展覧して紹介致します。是非ご覧ください。

絵付け体験コーナー：随時受付しています。



交通：高松駅より電車バス(塩江・穴吹方面行)で
塩江バスターミナル下車、徒歩5分。
無料駐車場完備

ホテルの里美術館
町立 塩江美術館

香川県高松市塩江町大字塩江1丁目5番地(旧)市役所
TEL:0878(9)310000 FAX:0878 777-16

もがみ ひさゆき

最上壽之

スタコラサッサ 1972年 杉 105×110×39

1936年(昭和11年)神奈川県横浜須賀野市に生まれる。1960年東京芸術大学彫刻科を卒業後モダンアート協会の会員となり、平塚田中賞や神戸須磨離宮公園現代彫刻展での優秀賞など数々の賞を受賞する。現在、熱海市在住。

「スタコラサッサ」と命名されたこの作品には、文字通り歩いている人の姿を連想することができる。デザイン的な要素を持ち、木の素材を活かしたシンプルな構成やユーモラスな題名からも、作者の自由奔放な表現方法を知ることができる。

植木 茂

トルソ

1967年 木 52.5×20.7×15

1913年(大正2年)札幌市に生まれる。1931年上京し三岸好太郎に師事し油彩を学ぶが1935年京都、奈良への旅行を転機とし独学で彫刻を始める。戦後一時期山口県周南市に住むが後に大阪に転居する。1950年山口県、村井正誠らとともにモダンアート協会を設立するが1954年同会を脱会、以後無所属となりベネチアビエンナーレやサンパウロビエンナーレなどの海外展をはじめ現代日本美術展、日本国際美術展などに作品を出品し評価を得ている。1984年大阪にて死去。

トルソとは、首及び四肢のない胴体だけの彫像であり、作者は幾つものトルソを制作している。このことから、抽象彫刻のバイオニアであった作者の最も重要なモチーフの一つであったことがうかがわれる。

さおだ せいこう

澤田政廣

裸婦

1924年 木 105×35×27.5

1894年(明治27年)静岡県加茂郡熱海町に生まれる。1913年上京し山本瑞雲に師事する。1924年には東京美術学校で朝倉文夫らの指導を受けるとともに、帝展において特選を受賞する。この作品は、この頃の制作であり、当時の日本の彫刻界を圧倒していた洋風彫刻の影響を受けていると思われる。1988年5月93歳で死去。

すみかわ きいち

澄川喜一

そりのあるかたち, 93

1993年 楓 232×80×68

1931年(昭和6年)鳥根県に生まれる。1951年山口県立岩国工業高校機械科を卒業。1956年東京芸術大学彫刻科を卒業し、58年同大学彫刻専攻科を修了。卒業制作賞を受賞する。1963年新制作協会会員となる。1979年には平塚田中賞を受賞するなど数々の賞を受賞し、1989年東京芸術大学美術学部長となり現在は、東京芸術大学学長として指導にあたっている。

長年にわたり木を素材とした活動が続けてきた作者は、70年代より「そり」を主要なテーマとしたシリーズを展開している。この作品もそのシリーズのうちにあり、そりとそりのバランス、木組の妙が冴えた作品となっている。

くろわらび そう

黒蔵 壮

飛ぶ

1991年 楠 26.5×104×31

1951年(昭和26年)鹿児島県久根市に生まれる。小学校頃から祖父の影響で彫刻に興味し、高校卒業後名古屋市の会社に就職、1976年のころ彫刻に専念する。1988年には、岐阜で隔年に行われる現代木彫フェスティバルで大賞を受賞する。

おきな ゆずる
翁 譲

木をきく

1991年 巻 182×38×37

1947年(昭和22年)仙台市に生まれる。多摩美術大学に彫刻科を卒業後、日本国際美術展などに作品を出品する。現在、東京都三鷹市在住。

この作品は1992年宮城県美術館で開催された「みちのくの造形Ⅱ一人のかたち」に出品されたものである。木に頭部をうずめる女性の彫像は、まさに木の心を聞いているかのように見え、作者の木に対する思いが感じられる作品である。

たてはたかくぞう
建昌覚造

CLUD-21 1982年 版 177×126×67

1919年(大正8年)東京都に生まれる。1941年(昭和16年)東京美術学校彫刻科を卒業、同年文展で特選を受賞する。その後直土会賞、野間賞を受賞し1950年行動美術協会彫刻部の結成に参加し、会員となる。1966年第7回現代日本美術展で国立近代美術館賞を受賞、翌年には、第10回高村光太郎賞を受賞する。1981年中原悌二郎賞を受賞。1983年ヘンリー・ムーア大賞展特別優秀賞を受賞。1990年芸術選奨文部大臣賞を受賞。東京都庁、長崎市、和歌山県立近代美術館など全国各地にモニュメントとして彫刻が設置されている。

前衛彫刻のパイオニアとして高く評価されている作者も、近年は合板を素材とした作品を制作している。均一化され規格化された合板の無機質な素材と有機的な造形美という二律背反的な要素の合体から生まれる立体造形の美しさを表現している。